



衣川 実介

『ロシアに隕石落下』

2013年 2月15日、ロシア南西部のチェリャビンスク州に隕石が落下と大きく報じられました。テレビやYouTubeで、その動画が流れたので、ご存知の方も多いと思います。わたしもびっくりして見ていたのですが、直接隕石の光跡を見たり衝撃波を感じたりしたロシアの人たちは何が起きたのかわからなかった人も大勢いたようです。中にはどこかの国が爆撃してきたと思った人もありました。もちろん、すぐに誤解だとわかったのですが、何の情報もなくいきなり光の球が空をものすごい速度で飛んできたら、ミサイルが飛んできたと勘違いしても不思議ではありません。ロシアでは衝撃波によって1400人以上の人がけがをされたということですが、大事に至らなかったのは不幸中の幸いでした。近郊にあるチェバルクリ湖では、凍った湖面に大穴ができ、落下地点とされています。直径はおよそ8メートル、付近では直径1センチほどの物体が複数見つかっており、隕石の破片と断定されています。



市民にとっては突然の隕石落下ですが、学者によると隕石は大小含め、常日頃から世界中に落下しているといいます。耳をつんざくような轟音が聞こえた途端に、猛烈な衝撃波で体ごと吹き飛ばされる。外出中にそんな得体の知れない災害に巻き込まれたら、あなたは無事に家へ辿りつくことができますか？あなたの頭上にもいつ降ってくるかわからない想定外の災害、それが「隕石」です。衝撃波で窓ガラスが崩壊したままの建物など、被害の爪痕が残るチェリャビンスク州では、負傷者のほとんどが手当を受け、通常の生活に戻っているといいます。しかし中には、隕石落下当時の恐ろしい記憶を拭えず、「爆発音などの大きな音に敏感になった」「夜眠れなくなった」といった、深刻な精神的苦痛を持ち続けている患者もいます。



私が隕鉄に興味を持ったのは20年以上も前のことです。鉄に関する本を読んでいたとき、宇宙から飛来する隕鉄には特有の幾何学模様があると記載され、その画像が載っていました。綺麗な三角形が見えます。『どうしてこんな模様が出るのだろうか？』どんな成分なのか？とどんどん好奇心が沸き立ちました。それ以来、『隕鉄がある』『隕鉄が見られる』などの情報を得る度に行って見たり調べたりしました。姫路科学館、愛媛県総合科学博物館など。ますます隕鉄に興味が増え、大勢の友人達にお願いし入手でき、現在『鉄のふしぎ博物館』では隕鉄が3ヶ、隕石が1ヶ展示されています。これらの隕鉄や隕石はさわることが出来ますので、ぜひ地球外の物体に触れてみてください。

『鉄のふしぎ博物館』

来て！見て！ふれて！ ふしぎ体感

鉄を見る目がかかりますよ。
ぜひお越しください。



むらの鍛冶屋®



何でもお気軽にお尋ねください！！

ホームページと電子メールをご利用ください。

<http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/>
ryou@memenet.or.jp

隕鉄



カンポ・テル・シエロ 8.6 kg